

PAT-NO: JP02002142596A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2002142596 A

TITLE: TOOL FOR TREATING DUNG OF DOG OR THE  
LIKE

PUBN-DATE: May 21, 2002

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YAMAMOTO, TERUTAKA

COUNTRY

N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

YAMAMOTO TERUTAKA

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP2000349054

APPL-DATE: November 16, 2000

INT-CL (IPC): A01K023/00

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a tool capable of treating dungs by a simple method for use without directly touching the dungs to be discharged during a walk, etc. of a dog.

SOLUTION: This tool for treating the dungs of the dog or the like is composed by attaching a ring (2) to one end of a handle (1), covering the ring (2) with a bag (6) and hooking holes (7) of a bag (6) on claws (3) attached to the ring (2) so that the bag (6) can be held.

COPYRIGHT: (C)2002,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-142596

(P2002-142596A)

(43) 公開日 平成14年5月21日 (2002.5.21)

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

A 0 1 K 23/00

識別記号

F I

A 0 1 K 23/00

テ-マ-ト\* (参考)

B

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願2000-349054 (P2000-349054)

(22) 出願日 平成12年11月16日 (2000. 11. 16)

(71) 出願人 596160850

山本 輝孝

福岡県北九州市八幡西区永犬丸2丁目14番  
8号

(72) 発明者 山本 輝孝

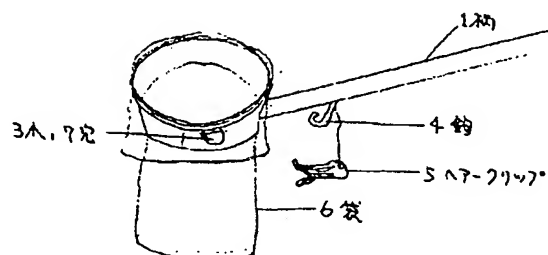
福岡県北九州市八幡西区永犬丸2丁目14番  
8号

(54) 【発明の名称】 犬等の糞処理用具

(57) 【要約】

【目的】 犬等の散歩時、排便される糞に直接触れることなく、簡単な使用方法で糞を処理できる用具。

【構成】 柄(1)の一端にリング(2)を取り付け、そのリング(2)に袋(6)を被せリングに付けた爪(3)に袋(6)の穴(7)を引っかけて袋(6)を保持できるように構成した。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 柄（1）の一端側にリング（2）を取り付け、そのリングに袋（6）を保持するための爪（3）をもった犬等の糞処理用具。

【請求項2】 リング（2）に装着し保持するための穴（7）と切り込み（8）をもった袋（6）。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、犬を散歩させる際に携帯し、犬が糞をする時、手を汚さずに処理できる犬の糞処理用具である。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、犬を散歩させる際、その犬が排泄した糞をスコップや袋で処理していた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】近年ペットの愛好者は多く、特に犬が散歩時の排泄物の放置は、そこに住む人達の大きな迷惑となり、現代社会の問題の一つでもある。しかし、自分のペットとはいえ、糞の処理は臭気もあり、袋やスコップでも余りにも生々しく、それ故に処理をしない人さえある。腹具合の悪い犬の糞の処理は尚更である。

【0004】本発明は、このような住環境に及ぼす悪影響を改善するために考案されたもので、携帯しやすく、使用が簡単で、誰もが積極的に糞処理を行える用具を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本発明の用具は、直接糞に触れないため、柄（1）の先端のリング（2）に袋（6）を装着し、犬が脱糞時にその袋（6）で糞を直接キャッチする。その時、その重さで袋（6）が落ちないようにリング（2）に付けた爪（3）で保持する。糞を収納後に手を汚すことなく袋（6）を容易に取り外せるようにした。

## 【0006】

【作用】以下本発明の実施の形態を説明する。

【0007】図4のように、柄（1）の一端にあるリング（2）の中に袋（6）の底を下にして入れる。その時予め加工してある袋（6）の穴（7）が爪（3）に、切り込み部（8）が柄（1）の元部方向になるように入れる。

【0008】袋（6）の穴（7）がリング（2）の上部よりやや上の任意の所で袋（6）をリング（2）全体に被せるように外側に折り曲げる。図5。

【0009】その後袋（6）の穴（7）を図4のリング（2）の爪（3）に引っ掛け、袋（6）の底を指で抓み

下に少し引っばる。これにより、袋（6）はリング（2）に保持され図5の形態になる。

【0010】上記のように準備した用具を犬等の散歩時に携帯し、犬が便を催し、脱糞の体勢に入った時、静かに袋（6）を柄（1）でコントロールしながら犬の尻下に持って行き、糞を直接キャッチする。

【0011】糞を収納した後、用具全体を地面に降し、袋（6）を爪（3）から外し、袋（6）の穴（7）を柄（1）下部にある鉤に引っ掛け、釣り下げ既存のヘアークリップ等で袋（6）の任意の部分挟む。図6。

## 【0012】

【発明の効果】以上説明したように袋（6）上部がリング（2）全体を被うので、糞がリング（2）に直接触れることがなく、仮に袋（6）の上部を汚したとしても、袋（6）をリング（2）より外した時は、その部分は袋（6）の内側となり、手を汚すことはない。

【0013】また、糞を直接キャッチするので、腹具合が悪い時の柔らかい糞でも容易に収納できる。

【0014】犬は一回の散歩時に必ずしも一回の用便とは限らず二度することもある。その時のために袋（6）を重ねてリング（2）に装着しておけば、初めの用便で糞を収納した袋だけを取り外せば、続けて使用可能である。

【0015】犬二匹を同時に散歩させる時も上記の説明のとおり糞の処理が簡単にできる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の用具全体図である。

【図2】図1を左正面から見た図である。

【図3】本発明の用具に装着し、糞を収納する袋である。

【図4】袋をリングに入れ爪に袋の穴を引っかける前の図である。

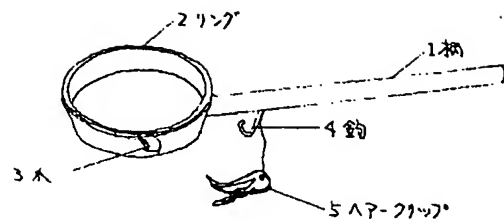
【図5】袋の上部を折り曲げリングの爪に袋の穴を引っかけた図である。

【図6】糞を収納後、袋を鉤に釣るし、ヘアークリップで袋を密閉した図である。

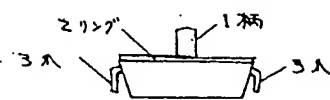
## 【符号の説明】

- 1 柄
- 2 リング
- 3 爪
- 4 鉤
- 5 ヘアークリップ
- 6 袋
- 7 穴
- 8 切り込み

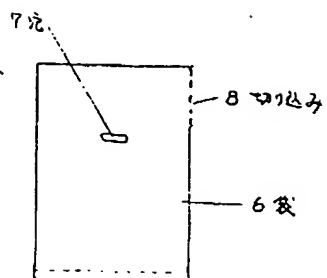
【図1】



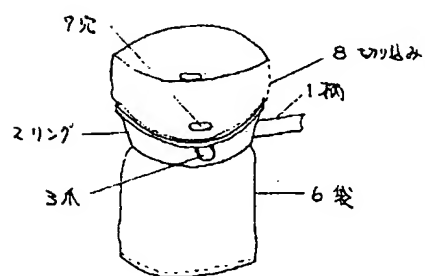
【図2】



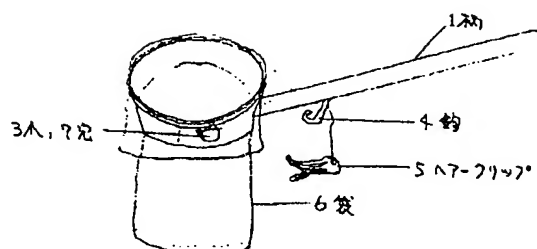
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

